

## タイにおける外国人技能実習生について 一般調査報告書

### 要旨

労働人口や就労意識の変遷を背景に、日本では多くの外国人労働者を受け入れています。近年、労働問題として取り上げられることも多い外国人技能実習制度を利用して、東南アジアからも多くの若者が日本に入学し、技能実習に取り組んでいます。ベトナムなどと比較して少数ではあるものの、タイでも継続して技能実習生を日本に送り出しています。今回のレポートでは、外国人技能実習生に注目することとし、①各種統計データに基づく技能実習生全体の概況と、②当センターがタイの送り出し機関と協力して実施した技能実習生向けセミナーの様子を報告します。

### 1. 外国人技能実習生にかかるマクロ分析

日本で働く外国人の数は継続して増加傾向にあり、最新の統計によると1,658,804人に達しました。事業主に外国人労働者の届出が義務付けられた2007年以降、過去最高を更新しており、この10年の間に約3.5倍に増加しました(図1;厚生労働省2019年10月末時点)。

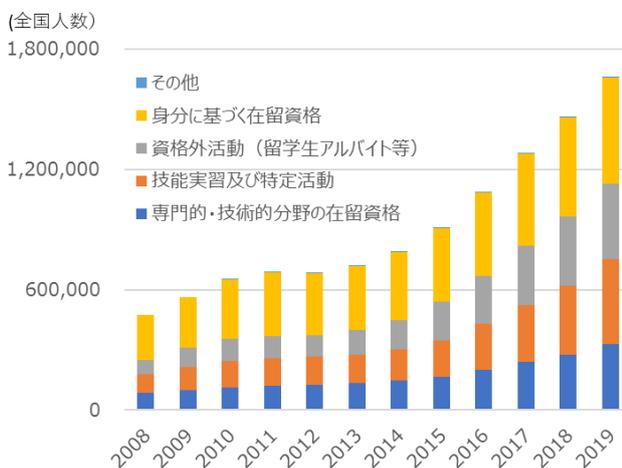


図1 外国人労働者の推移

出所:厚生労働省 外国人雇用状況の届出状況のまとめ

在留資格別の数値に着目すると、永住者や日本人の配偶者など「身分に基づく在留資格」が継続して最多で2019年10月末時点で531,781人、全体の32%を占めています。当該在留資格を有する外国人は労働上の制限がありません。伸び率が最も大きいのは留学生等のアルバイトによる資格外活動で、統計期間に

5.3倍となっています。コンビニエンスストアやレストランなどで外国人を見かけることが多くなったことから、こうした傾向を実感している方も多いのではないのでしょうか。

今回のテーマである外国人技能実習生は、図1において統計上の都合から「技能実習及び特定活動」の括りで整理しており、期間中に4.5倍に増加しました(特定活動は技能実習に対して1割程度と少数)。2019年10月末時点の技能実習単独人数は383,978人で外国人労働者全体の23.1%となっています。

図2では、外国人技能実習生数の推移を国籍別に示しています。使用する統計は異なりますが、全体の人数は図1と同様に増加傾向を示しています。2012年時点では中国からの技能実習生が圧倒的でしたが、その人数は近年漸減しています。一方で、存在感を強めているのがベトナムです。この7年間で13倍の急増となり、2019年12月末時点で218,727人に達しています。タイからも、ベトナムや中国と比較すると少数ではありますが、1万人前後の技能実習生を受け入れています。

ここでは詳細を言及しませんが、技能実習生を含む外国人労働者の国際的な移動は、2国間の賃金水準の差、雇用環境、各国の労働者送り出しに係る戦略、人材ビジネス事業者の活動、文化や言語面での差異といった様々な要因によって変動することは、各種報道や学術研究によって指摘されているとおりです。

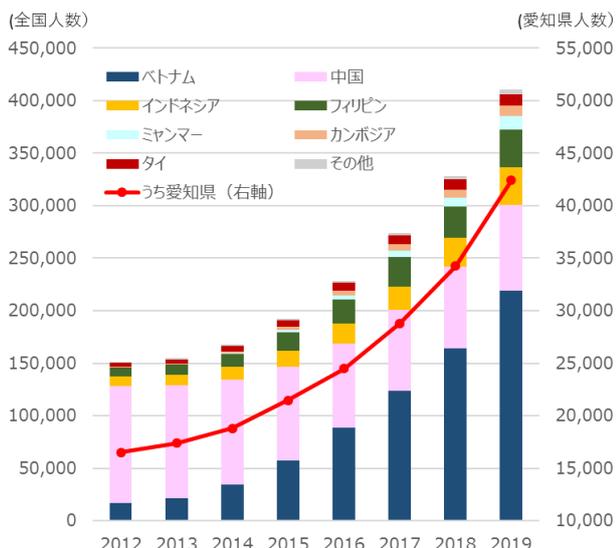


図2 技能実習生の推移(国籍別及び愛知県内)  
出所:法務省 在留外国人統計 各年 12 月末の数値を採用

図2には愛知県の技能実習生受け入れ人数を折れ線グラフで併記しています。全国の受け入れ人数と同様に右肩上がりの増加傾向を示しており、概して全国人数の1割程度が愛知県で技能実習に取り組んでいることが分かります。

次に、技能実習生がどのような職種で実習を受けているのかに着目します。図3は、日本全国(上段)と愛知県(下段)において2018年度に認定された技能実習計画を職種別に整理したものです。上述のとおり、愛知県の件数は全国の1割程度です。職種の違いに注目すると、愛知県では農業や食品製造に係る割合が相対的に小さく、機械・金属とその他の職種が大きい傾向にあります。「その他」には、プラスチック成型、溶接、塗装、工業包装などが含まれており、製造業が集積する地域特性を反映しているものと考えられます。

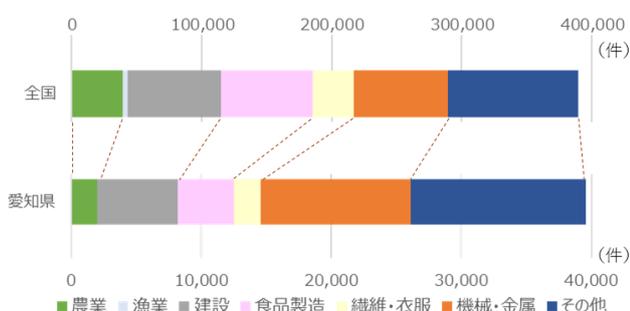


図3 職種別技能実習計画の分布  
出所:外国人技能実習機構 平成30年度業務統計 都道府県別職種別技能実習計画認定件数

最後に、コロナ禍が技能実習生に与えている影響を確認します。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国境を越えた人の動きに対する制限は、技能実習生の出入国にも大きな影響を与えています。図4では、技能実習生における2019年4月以降の月別出入国者数を国籍別に整理しています。これまで述べてきたように、2019年まで技能実習生の数は一貫して増加してきました。そのため、入国者数、出国者数ともに、月ごとの変動はあるものの対前年同月比を上回る傾向で推移していました。

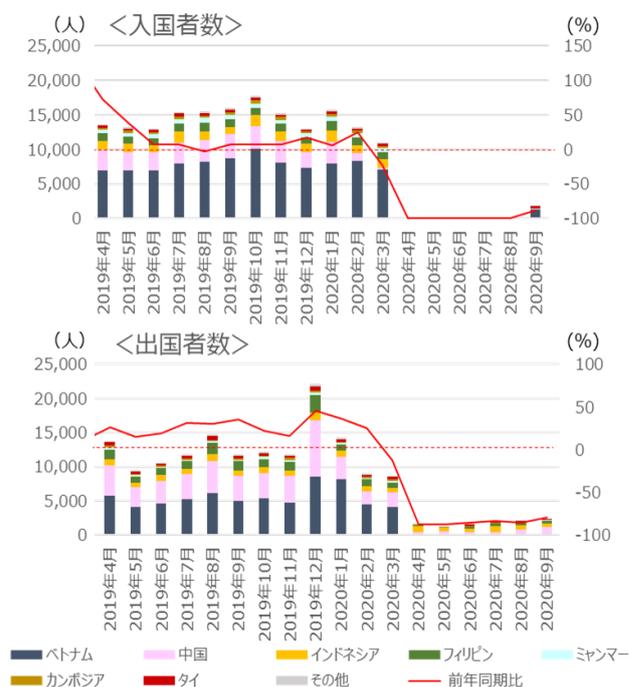


図4 技能実習生 月別出入国数の推移  
出所:法務省 出入国管理統計 入国者数は技能実習1号口の値を、出国者数は技能実習1号イロ、2号イロ、3号イロの合計を採用

しかしながら、コロナ禍による出入国の制限が始まる2020年3月以降は従来と全く異なる傾向が見られます。技能実習生の入国については、日本政府の水際対策が強化され始めた4月からほぼ0となりました。予定していた技能実習生の受け入れがかなわず、耕作面積を減らす農家が出たといった報道も目にしました。本報告の後半で詳述するタイの送り出し機関(Thai Asawalert Manpower Co.,Ltd.;以下、アサワラート社と記載)でも、実習先が決まっていた技能実習生が日本に渡航できない事案も発生しています。8月以降は徐々に日本への入国ができるようになり、同社でも送り出しを再開したとのことですが、現時点では送り出し人

数は限定的です。

技能実習生が日本から母国に帰る出国者数についても各国の入国制限や国際線の減便により大幅に減少しました。日本政府は、コロナ禍により帰国が困難となった技能実習生に対し、在留資格変更許可及び在留期間更新許可の申請を受け付け、継続した就労が可能となる制度を運用しています。

ワクチンや治療薬の開発状況を鑑みるに、各国の検疫体制や国際航空路線の運航便数がコロナ前に戻るには相当の時間を要すると思われます。実習という建付けではあるものの、実際には地域産業の担い手として欠くことのできない技能実習生の出入国状況は今後も注視する必要があります。

## 2. 外国人技能実習生向けセミナー

当センターでは、愛知県で技能実習に取り組む予定となっている技能実習生を対象に、愛知県の魅力、産業構造、日本とタイの文化的な違いなどを紹介するとともに、技能実習に対する目的意識を醸成するため、アサワラート社の協力を得てセミナーを実施しました。ここではその概要を紹介します。

### (1) アサワラート社の概要

アサワラート社はタイの中で有数の送り出し実績を持っており、日本の外国人技能実習機構など多くの公的機関も当社を視察してモデル事例として取り上げるなど優良送り出し機関として評価されています。

- ・設立:2002年
- ・理念:青少年の育成を通じタイの発展に貢献することを目的に、各自の将来において自立した職業を持てるように成長の機会を提供しています。
- ・事業:タイ東北部の高等専門学校等と連係して学生を募集しています。6か月以上の学習期間に日本語、マナー、基礎的な技能に係る教育を実施し、監理団体と連係の元、技能実習生を送り出しています。日本に独自の駐在スタッフを配置し、実習期間中も技能実習生をフォローしています。また、技能実習を終えて帰国した学生の就職支援も行っています。
- ・実績:18年間で4,000人以上の技能実習生を送り出

しており、受入れ先企業の3割は愛知県企業です。事前教育や丁寧なフォローに努めており、今のところ失踪などのトラブル事例は起こっていません。



図5 アサワラート社の皆様

アサワラート社の玄関前にてキャリア教育に参加した学生や教員の皆様と一緒に

### (2) セミナーの内容

当日(10月15日(木))は、①筆者及び日本で就労経験のある当センターのナショナルスタッフによるプレゼンテーション(表1)、②技能実習生OBによるスピーチ、③自由討論とアンケート記載という3段階でセミナーを実施しました。リラックスした雰囲気のもと、学生側からの発言機会を多く設けることで、楽しく参加してもらえよう工夫しつつ進行しました。

表1 愛知県からのプレゼンテーション

内容	項目	主なメッセージ
愛知の魅力	愛知の概要	人口や地理的な特徴を説明 日本の中央に位置し新幹線など発達
	愛知の見所	自然、水族館等などが沢山 犬山城は本物のお城なので登るべし
	名古屋めし	味噌文化、モーニングサービスのすすめ 台湾ラーメンはガパオラーメンか?
	産業観光	産業関係の博物館が多い 産業の歴史についても学んで欲しい
	愛知の産業	ものづくりが盛んな地域 技能実習の受入先である中小企業は 産業を支える重要な社会の担い手
タイと日本の比較	空気を読む	周囲の雰囲気を見たり気配りが大切
	公共施設	電車やバスに乗るときはマナーを守ること
	生活習慣	入浴、トイレの使い方、ごみの分別など タイと異なる習慣がある
	食事	自動販売機が色々あって面白い タイと異なり朝市や屋台は少ない
四季	冬は寒いので服装で調整すること	

技能実習生 OB のスピーチでは、技能実習生として

日本で過ごす中で困難を乗り越えて成長することが出来た経験、旅行や祭りに参加した思い出、貯金で両親に農場を整備してあげたことなどが紹介されました。現在はアサワラート社の日本語教師として後輩の育成に遣り甲斐を感じていることや、将来、子供が生まれたら日本での経験を教えてあげたいといったコメントが印象的でした。

最後に、技能実習を有意義なものとするため、愛知県で挑戦したいことと、タイに帰国してから挑戦したいことを紙面に記載してもらうことで、キャリア意識の醸成に繋がりました。



図6 セミナーの雰囲気

左上から時計周りに;全体の雰囲気、講演する筆者とナショナルスタッフ、真剣な表情でアンケートに記入する学生、スピーチする技能実習生OB

## (2) セミナーの成果

本セミナーには20名の学生が参加してくれました。アンケートで全体の評価を4段階で質問したところ、15名が「役に立った」、5名が「まあ役に立った」と回答してもらえました。プレゼンテーションの内容について、興味を持った項目を答えてもらったところ、当センターナショナルスタッフがユーモアを交えた体験談でお風呂やトイレの違いを説明した日本人の生活習慣は参加者全員から好評でした。筆者が説明した日本における愛知の産業力や中小企業の大切さ、県内の見所についても興味を持ってくれた学生が多かったので、愛知県の魅力をPRする目的を果たすことができてほっとしました(図7)。

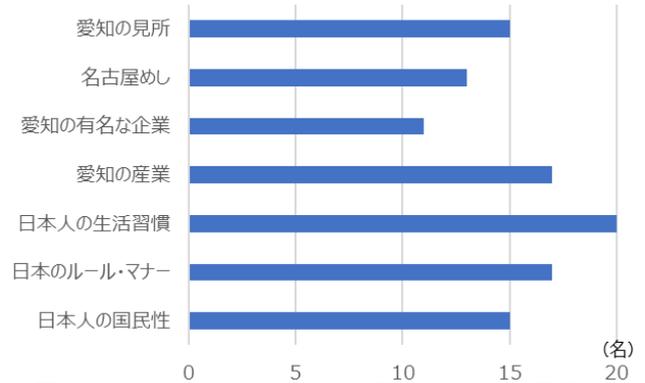


図7 セミナー中で参加者が興味を持った項目  
アンケート結果より抜粋

参加者のキャリア意識を把握するため、技能実習期間とタイに帰国してからに分けて挑戦したいことを自由記述してもらいました(表2)。中には、「社長の家族と仲良くなって、帰国後にタイ法人の代表になりたい」という野心的な回答もありましたが、総じて日本語や日本文化について親しみ、日本語能力や日本での滞在経験を活用した仕事に挑戦したいという意見が多く、技能実習を通じて習得した技能を活かしたいという意見は少数に留まりました。技能実習制度の理念と技能実習生の想いの間にあるギャップを改めて感じました。

同席してくださったラウインタン副社長からは、「技能実習を控えた学生にとって貴重な機会となった。同様のセミナーを継続して欲しい。」とのコメントもいただきました。次回、同様の取組を行う機会があれば、技能面の挑戦を促すことにも挑戦してみたいと考えています。

表2 技能実習を通じて挑戦したいこと

愛知県で技能実習期間に挑戦したいこと	件数
旅行や行事に参加して日本文化を理解	20
日本語の習得	9
日本食を食べる	9
日本人と交流	5
貯金	4
タイに帰国して挑戦したいこと	件数
日本語を活かした仕事(通訳、ガイド、教師等)	12
起業(日本食レストラン、不動産業、農業等)	8
日系企業に就職(習得した技能を活用)	3
その他(日本文化の紹介、親孝行等)	6

アンケートより抜粋 複数回答あり

### 3. おわりに

人材育成に関連した取組として、「タイ版スマートものづくり応援隊創設支援事業」の成果普及セミナーに参加しました。本事業は、タイの製造現場におけるカイゼンやIoT・ロボット導入を主導できる人材を育成することを目的とした経済産業省の委託事業です。

成果発表の場では、IoT化に取り組んだ11名のタイ人指導員からカイゼン事例のプレゼンテーションがありました。日本で学んだカイゼン方法をタイ企業の中で実践するもので、現場担当者を巻き込みながら課題を洗い出し、優先順位を付けた上でセンサーなどのIoT機器を用いて課題解決を行い、得られた成果を数値で把握していました。現場担当者が主体となってカイゼンに取り組むのを指導員がサポートする事例もあり、本事業のコンセプトである「伴走型」が効果的に機能している印象を受けました。

日本の技術、技能を広めることで他国に貢献したいという理念は本事業も外国人技能実習制度も共通のことと思います。制度に関わる関係機関の事情やコロナ禍の影響もあり、技能実習生に関する辛い報道を目にする機会が多くなっています。企業側と人材側のニーズが多様化する中で、個々の人材に寄り添う細やかさと真摯さが大切なのではと考えさせられました。

なお、当該セミナーは東南アジアを代表する製造業関連の総合展示会「METAREX 2020」の会場で行わ

れました。通常であれば日本を含む海外からの出展者及び来場者で賑わう大規模展示会ですが、コロナ禍の今年は出展を見合わせる企業も多く、少し寂しい雰囲気でした。

企業によっては、METAREXの出展に替えて自社内の展示ブースに顧客を招くイベントを実施し、想像以上の成果があったとの声も聞きます。オンライン化や個別化など、従来の展示会出展とは異なる販路開拓方法にも注目です。



図8 スマートものづくり応援隊成果普及セミナー  
上：成果普及セミナーで発表する指導員  
下：会場となった METAREX 2020 の会場

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。